

事 業 評 価 書

補助事業名	稲田小学校ほか1校物品購入		
補助事業者名	名護市長		
実施場所	名護市字我部祖河、字大西地内		
補助事業の成果の目標	<p>○ 稲田小学校(音楽教室)</p> <p>上記の学校にあるグランドピアノは、購入から44年以上経過して老朽化が進んでおり、弦、ハンマーの錆及び疲労が激しい。また、白鍵を押した後、戻りが悪い部分が数カ所ある。</p> <p>○ 名護中学校(音楽教室)</p> <p>上記の学校にあるグランドピアノは、購入から33年以上経過して老朽化が進んでおり、弦、ハンマーの錆及び疲労が激しい。現在、弦が破損している状況にあり、授業に支障をきたしている。</p> <p>以上の課題改善に向け、本事業によりグランドピアノを購入、設置することで授業を安定的に行える環境を整備する。</p>		
補助事業の内容	グランドピアノ 2台		
補助事業の始期及び終期	令和3年度		
事業費及び交付金額		令和3年度	計
	事業費	4,059,000 円	4,059,000 円
	交付金額	4,059,000 円	4,059,000 円
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>【補助事業の成果及び評価】 本事業を実施したことにより、音楽の授業等を安定的に行える環境を整備することができた。このことについて、小学校及び中学校の教師へアンケートを実施したところ、「これまでのピアノでは音が出ない弦があり、学習に支障をきたしていた。今回、備品が整備されたことにより、“正しい音”が出るようになり、学習効果が上がった。」や「新しいピアノが入ったことで、ピアノを弾いてみたい意欲が高まり、われ先にピアノを演奏する様子が見られた。」等の回答が得られており、安定的に授業を行える環境が整ったと評価する。</p> <p>【地域住民への周知】 保護者及び地域住民への周知については、本事業が特定防衛施設周辺整備調整交付金事業である旨を市ホームページへ掲載して周知を図った。</p>		
事業の改善措置及び今後の対応	今後とも安定した学校運営のため、整備した備品を適切に管理していく。		
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無		

事業評価書

補助事業名	フルハーネス型墜落制止用器具購入					
補助事業者名	名護市長					
実施場所	名護市大北地内					
補助事業の成果の目標	<p>平成31年1月25日に安全帯の規格の全部を改正する告示(平成31年厚生労働省告示11号)があり、平成31年2月1日から適用され、6.75mを超える高さの箇所を使用する墜落制止用器具は原則フルハーネス型のものでなければならないとされている。近年の複雑多様化する災害現場において、安全で効果的な消防活動を図るためにフルハーネス型墜落制止用器具を整備するものである。</p> <p>フルハーネス型墜落制止用器具を購入することにより、労働災害防止の措置強化及び安全管理体制の充実強化が図られる。このことは迅速で効果的な消防活動を構築し、災害等から市民の生命、身体及び財産を保護するとともに、災害による被害の軽減を図ることに繋がる。</p>					
補助事業の内容	物品購入 フルハーネス型墜落制止用器具一式					
補助事業の始期及び終期	令和3年度					
事業費及び交付金額		令和3年度				計
	事業費	円 2,039,290	円	円	円	円 2,039,290
	交付金額	2,039,000				2,039,000
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>【補助事業の成果及び評価】 本事業を実施したことにより、災害事案にかかる訓練においてフルハーネス型墜落制止用器具が活用され、令和4年3月1日からの半年間で122回実施することができた。以上のことにより迅速で効果的な消防活動や災害による被害軽減を図る環境整備ができたと評価する。</p> <p>【地域住民への周知の実施状況】 地域住民への理解を図るため、特定防衛施設周辺整備調整交付金による事業である旨を以下のように周知。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 市広報誌へ掲載(令和4年5月号) 2 市ホームページへ掲載 					
事業の改善措置及び今後の対応	今後も安定した消防力を維持するため、資機材の点検等を計画的に実施し、整備を図る。					
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無し					

事 業 評 価 書

補助事業名	屋我地ひるぎ学園ほか5校物品購入		
補助事業者名	名護市長		
実施場所	名護市字饒平名、字真喜屋、字田井等、字屋部、大北		
補助事業の成果の目標	<p>○ 屋我地ひるぎ学園、屋部中学校(工作台・実験台・角イス) 屋我地ひるぎ学園特別教室棟の新築工事に伴い、老朽化している技術室用工作台、理科室用実験台及び角イスを新規に購入し、整備する。 屋部中学校は年々生徒数が増加してきているが、理科室が1教室しかないため、現在、空き教室を第2理科室として使用している。そのため、実験台及び角イスが無く、余った生徒用机・イスを代用しており、実験等が行えず授業に支障をきたしている状況である。</p> <p>○ 真喜屋小学校、羽地小学校、屋部小学校、大北小学校、屋我地ひるぎ学園(カーテン) 上記の学校は教室にカーテンの設置が無い、あるいは片側のみの設置であるため、授業に支障をきたしている状況である。</p> <p>以上の課題改善に向け、本事業によりこれらの物品を購入、設置することで授業及び学校活動等を安定的に行える環境を整備する。</p>		
補助事業の内容	工作台・実験台・角イス、カーテン 一式		
補助事業の始期及び終期	令和3年度		
事業費及び交付金額		3年度	計
	事業費	6,869,388 円	6,869,388 円
	交付金額	6,869,000 円	6,869,000 円
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>【補助事業の成果及び評価】 本事業を実施したことにより、授業等を安定的に行える環境を整備することができた。このことについて、小学校及び中学校の教師へアンケートを実施したところ、カーテンの整備により「光が遮断され、黒板、テレビ、児童用PCの見えづらさが解消され、授業に集中して取り組めるようになった。」、工作台・角イス・実験台の整備により「工作台、実験台、各イスが整備されたことで、基本的な学習環境が整いました。」等の回答が得られており、安定的に授業を行える環境が整ったと評価する。</p> <p>【地域住民への周知】 保護者及び地域住民への周知については、本事業が特定防衛施設周辺整備調整交付金事業である旨を市ホームページへ掲載して周知を図った。</p>		
事業の改善措置及び今後の対応	今後とも安定した学校運営のため、整備した備品を適切に管理していく。		
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無		

事 業 評 価 書

補助事業名	学校給食施設備品購入		
補助事業者名	名護市長		
実施場所	名護市字仲尾次、宇茂佐地内		
補助事業の成果の目標	<p>○ 電気式食器消毒保管庫（屋部学校給食センター） 食器消毒保管庫は古く、修繕対応できる業者がないため、新たに購入する必要がある。</p> <p>○ フードスライサー（羽地学校給食センター、屋部学校給食センター） フードスライサーの製造年が古いため安全装置が無く、事故が発生した場合、提供できないメニューの発生や調理作業に遅れが生じる恐れがある。また、老朽化による錆や汚れ等が原因で異物混入が生じる恐れがある。</p> <p>以上の課題改善に向け、本事業によりこれらの物品を購入、設置することで安定して調理を行うことができ、安全・安心な学校給食の提供に資する。</p>		
補助事業の内容	電気式食器消毒保管庫、フードスライサー 一式		
補助事業の始期及び終期	令和3年度		
事業費及び交付金額		令和3年度	計
	事業費	4,444,000 円	4,444,000 円
	交付金額	4,444,000 円	4,444,000 円
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>【補助事業の成果及び評価】 本事業を実施したことにより、学校給食の調理業務を安定的に行える環境を整備することができた。厨房機器の購入後は機器の不具合による調理作業の遅れや、献立の変更は発生しておらず、安全・安心な学校給食を提供できる環境が整ったと評価する。</p> <p>【地域住民への周知】 地域住民への周知については、本事業が特定防衛施設周辺整備調整交付金事業である旨を市ホームページへ掲載して周知を図った。</p>		
事業の改善措置及び今後の対応	今後とも安全・安心な学校給食を提供するため、整備した備品を適切に管理していく。		
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無		

事業評価書

補助事業名	大北小学校ほか13校物品購入		
補助事業者名	名護市長		
実施場所	名護市字真喜屋、字田井等、字我部祖河、字屋部、宮里、大西、東江、大北、字仲尾次、字豊原、字大東、字饒平名		
補助事業の成果の目標	<p>○ 大北小学校、羽地小学校、屋部小学校、羽地中学校、久辺中学校(カーテン) 上記の学校は、カーテンが無く、授業に支障をきたしている状況である。</p> <p>○ 東江中学校ほか1校(音響機器) 上記の学校にある音響機器は、老朽化が進んでおり(大宮小学校及び東江中学校共に購入年度不明)、授業等に支障をきたしている状況である。</p> <p>○ 名護小学校ほか1校(体操マット) 上記の学校にある体操マットは、老朽化が進んでおり(名護小学校及び屋部中学校共に購入年度不明)、授業等に支障をきたしている状況である。</p> <p>○ 大宮小学校(屋内用ソフトマット) 上記の学校にある屋内用ソフトマットは、老朽化が進んでおり(購入年度不明)、授業等に支障をきたしている状況である。</p> <p>○ 真喜屋小学校、屋我地ひるぎ学園(サッカーゴール) 上記の学校にあるサッカーゴールは、老朽化が進んでおり(購入年度不明)、授業等に支障をきたしている状況である。</p> <p>○ 大宮小学校ほか1校(跳び箱) 上記の学校にある跳び箱は、老朽化が進んでおり(大宮小学校は平成14年度購入、名護小学校は平成15年度購入)、授業等に支障をきたしている状況である。</p> <p>○ 大宮小学校(ローター板) 上記の学校にあるローター板は、老朽化が進んでおり(昭和50年度～平成14年度購入)授業等に支障をきたしている状況である。</p> <p>○ 羽地小学校ほか3校(机・イス) 上記の学校にある机・イスは老朽化が進んでおり(羽地小学校は平成18年度～平成22年度購入、稲田小学校は平成18年度購入、東江小学校は平成17年度～平成20年度購入、東江中学校は昭和61年度～昭和63年度購入)、授業等に支障をきたしている状況である。</p> <p>○ 屋部小学校ほか1校(給食台) 上記の学校にある給食台は、老朽化が進んでおり(屋部小学校が平成23年度購入、東江小学校が平成14年度購入)、授業等に支障をきたしている状況である。</p> <p>○ 名護小学校(回転イス) 上記の学校にあるPC教室用回転イスは、老朽化が進んでおり(購入年度不明)、授業等に支障をきたしている状況である。</p> <p>○ 名護小学校(会議用テーブル) 上記の学校にある体育館の会議用テーブルは、老朽化が進んでおり(平成元年度購)、イベント等に支障をきたしている状況である。</p> <p>○ 名護中学校(技術室用工作台) 上記の学校にある体育館の技術室用工作台は、老朽化が進んでおり(購入年度不明)、授業等に支障をきたしている状況である。</p> <p>○ 名護中学校(技術室用角イス) 上記の学校にある技術室角イスは老朽化が進んでおり(平成5年度購入)、授業等に支障をきたしている状況である。</p> <p>○ 名護中学校(美術室用丸イス) 上記の学校にある美術室用丸イスは老朽化が進んでおり(購入年度不明)、授業等に支障をきたしている状況である。</p> <p>以上の課題改善に向け、本事業によりこれらの物品を購入、設置することで授業及び学校活動等を安定的に行える環境を整備する。</p>		
補助事業の内容	カーテン、工作台、机・イス、角イス、丸イス、会議用テーブル、給食台、回転イス、音響機器、体操マット、屋内用ソフトマット、サッカーゴール、跳び箱、ローター板 一式		
補助事業の始期及び終期	令和3年度		
事業費及び交付金額		3年度	計
	事業費	16,005,220 円	16,005,220 円
	交付金額	16,005,000 円	16,005,000 円
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>【補助事業の成果及び評価】 本事業を実施したことにより、授業等を安定的に行える環境を整備することができた。このことについて、小学校及び中学校の教師へアンケートを実施したところ、体育備品の整備により「体育の時間において体操を行う際に、今までのマットが老朽化し安全面で心配であったが、新しい体操マット(すべり止め付き)になり、その心配がなくなり授業では他の部分に注意を向けることができるようになり、助かっている。」、給食台の整備により「給食台なしでは、配膳時、衛生面の課題が大きい。給食台は教室に不可欠であり、整えてもらうことによって、衛生的で準備片付けに係る時間が減少した。」、音響機器の整備により「体育館で行う行事において、とても放送の音が聞きやすくなった。」等の回答が得られており、安定的に授業を行える環境が整ったと評価する。</p> <p>【地域住民への周知】 保護者及び地域住民への周知については、本事業が特定防衛施設周辺整備調整交付金事業である旨を市ホームページへ掲載して周知を図った。</p>		
事業の改善措置及び今後の対応	今後とも安定した学校運営のため、整備した備品を適切に管理していく。		
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無		

事 業 評 価 書

補助事業名	高齢者肺炎球菌ワクチン接種助成事業						
補助事業者名	名護市長						
実施場所	名護市委託実施医療機関						
補助事業の成果の目標	<p>本市は平成26年度から高齢者に対し、高齢者の死因で高い割合を占める肺炎を防止、高齢者の健康づくりを進める目的で肺炎球菌ワクチン接種事業を行ってきたが、今般特定防衛施設周辺整備調整交付金を充当し自己負担額を全額助成することで、高齢者の感染防止及び流行を抑え、高齢者の健康づくり及び住みよいまちづくりの向上を図る。</p> <p>参考指標 補助事業開始前、過去3年間の平均接種率 31.9%</p>						
補助事業の内容	高齢者肺炎球菌ワクチンの予防接種費用の助成						
補助事業の始期及び終期	基金の造成：平成30年度から令和元年度まで 基金の処分：令和元年度から令和5年度まで						
事業費及び交付金額			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	計
	基金造成額	交付金額	円	円	円	円	円
		市町村費等	0	0	0	0	0
		運用益	0	0	0	0	0
		計	12,781,000	12,719,000	0	0	25,500,000
	基金処分量	0	5,844,623	8,030,448	6,969,843	20,844,914	
基金残額	12,781,000	19,655,377	11,624,929	4,655,086	4,655,086		
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>【補助事業の成果及び評価】 ・補助事業により個人負担を無料にした高齢者肺炎球菌ワクチンの接種率は令和元年度は40.1%、令和2年度は40.0%と平成30年度の32.1%から約8%上昇したが、令和3年度は接種率が36.1%となり4%の上昇となった。これは新型コロナウイルス感染症の影響による接種控えや、新型コロナワクチン接種への関心が広がったためだと考えられる。</p> <p>【地域住民への周知の実施状況】 ・市ホームページに本事業が特定防衛施設周辺整備調整交付金により実施される旨を掲載し、市民全体に周知を行った。 ・市民のひろば(市広報)等で接種期限等を周知、対象者への通知文や未受診者への勧奨はがきでは無料で実施することや接種間隔の注意喚起を行いながら接種勧奨を行った。 ・医療機関に間違い接種を防ぐ取り組み依頼の文書を通し、新型コロナワクチン接種と肺炎球菌ワクチン接種の両方の対象者が正しい接種間隔で接種出来るよう周知を行った。</p>						
事業の改善措置及び今後の対応	・今後の接種率の維持向上を図るために、事業の周知についてはこれまでの内容を継続していくとともに、有効な周知方法があれば取り入れていく。						
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無						